

創立二十周年記念シリーズ——全曲初演——

# 日本音楽集団

第八十五回◆秋の総合定期演奏会



二十歳になった日本音楽集団

上野 晃

日本音楽集団への提案

長尾 一雄

新曲に寄せる作曲家からのことば

日本音楽集団創立二十周年に

寄せるメッセージ

定期演奏会の記録(下)

日本音楽集団海外公演記録抄

邦楽現代ニユース

「成功させる会」交流会報告

日本音楽集団の活動とご案内

他

昭和五十九年九月五日「水」七時開演  
朝日生命ホール

ごあいさつ

日本音楽集団指揮者

田村拓男

日本音楽集団が多くの方がたの御理解や御協力を得ながら二十歳を迎えることが出来ました。二十年というのは確かに一つの大きな区切りですが、この二十年を礎にして、今後どのような歴史を刻むのかは今後の集団に課せられた大きな課題だと認識しています。

集団が団員の生活を保障しているのでもなく、逆にみんなで労力を持ち寄り、音楽家にとって不得手な会議を積み重ねて音楽を考え続けた二十年でした。ナイーブで鳴る音楽家の集まりですし、いろいろな条件下での葛藤ですから、すべてに順風満帆とはいかないこともありました。それを乗り越えられたのは、現代の日本音楽の創造への使命感のようなものと、伝統楽器のアンサンブルへの計り知れない可能性と魅力を見出したことによる音楽家としての業であったのかも知れません。

またこの二十年間、私たちは、話し合いや討論を通じて、お互いに高まることが出来ることも知りました。ややもすると自分だけの殻にとじこもり、煩わしさからの逃避におちいり易い気持をおさえて、積極的に人びとの心に入っていく努力をしてこそ世界が広がるのだと思います。

集団の目ざす音楽が今後とも、より多くの人びとに支持されるためには、聴衆の方がたとの心のかような対話が必要だと思えます。そして来年、集団が二十一歳目をスタートするにあたって、これらの方が多い方がたとともに、音楽の世界が栄えるような社会の到来に努力したいと思っています。

## 二十歳になった日本音楽集団 上野晃

二十歳になった日本音楽集団、という云い方は、多分適切であるまい。成年、大人といった意味のそれではなく、二十の年輪のあいだの一つ一つに詰められていく創造的な営みの証、その厚みと重みが、いま快くのしかかってくる。

一九六四年、日本音楽集団が誕生したとき、私たちの新しい音楽の波は、最初のピークから次の段階に移行し、かのエキスポ一九七〇年に向って、再びエネルギーを溜めていた。日本の音楽創造がもっとも赫々と燃え盛った一九六〇年代のまっただなかに、日本音楽集団はスタートした。が、それはまた、私自身のある時期からの音楽体験やライフサイクルとほぼ併行しているの、今日にいたるまで余所ごとであったときは一度もない。

さまざまな好契機と必然を得て生まれた集団にちがいないし、私たちもひそかに待ち望んでいたのだが、この邦楽オーケストラが実現したときの驚きは、何にもまして大きかった。若い邦楽家たちと洋楽系作曲家たちの密なる連携、流派を超えた群の活動などが、この邦楽ルネサンスを築きゆく源流であった。しかしなお、熱い創造的活力、不断の内的批評、あらたな価値観、社会的な新しい視野などが、絶えず意識の連帯を強固にして、独立した領域は拓かれてきた。

現在六十名余の総員を擁する日本音楽集団には、伝統音楽の重圧のなかをかいくぐってきた草創期の人たち、精神的により自由な解放の土壌から育ってきた第二世代の邦楽家たち、さらに既成価値観として集団に加わってくる新人たちもふえつつある。自主的であったはずの組織に彼我が生じるかも知れないし、体質の変化がいつ吹き出して来るかも知れない。これからは正念場ともいえずなくもない。つねに新しい可能性の追究を、個から群へ、群から個へと、どこまでも持続してほしい。

# プログラム

## 一、桜川（初演）

創立二十周年記念作曲公募第一位「日本音楽集団作曲賞」受賞作

〔指〕	〔打〕	〔十〕	〔箏〕	〔琵琶〕	〔三線〕	〔尺八〕	〔尺八〕	〔笛〕
〔樂〕	〔器〕	〔絃〕	〔I〕	〔II〕	〔I〕	〔尺八〕	〔尺八〕	〔竹井 誠〕
〔揮〕	〔器〕	〔絃〕	〔I〕	〔II〕	〔I〕	〔尺八〕	〔尺八〕	〔三橋貴風〕
								〔太田幸子〕
								〔半田淳子〕
								〔吉村七重〕
								〔木村玲子〕
								〔高橋明邦〕
								〔稲田 康〕

田中友子 作曲

## 三、秋のコンチエルト（委嘱・初演）

〔指〕	〔打〕	〔十〕	〔箏〕	〔箏〕	〔琵琶〕	〔三線〕	〔尺八〕	〔尺八〕	〔笛〕
〔樂〕	〔器〕	〔絃〕	〔II〕	〔I〕	〔II〕	〔I〕	〔尺八〕	〔尺八〕	〔竹井 誠〕
〔揮〕	〔器〕	〔絃〕	〔II〕	〔I〕	〔II〕	〔I〕	〔尺八〕	〔尺八〕	〔宮田耕八朗・福田輝久〕
									〔三橋貴風・素川欣也〕
									〔太田幸子・山本哲子〕
									〔田原順子・山田まゆ美〕
									〔吉村七重・熊沢栄利子〕
									〔内藤洋子・島崎春美〕
									〔滝田美智子・佐藤里美〕
									〔堅田啓輝・細谷一郎（客演）〕
									〔田村拓男〕

中村八大 作曲

## 二、青のモチーフによるコンポジション（委嘱・初演）

佐藤敏直 作曲

〔指〕	〔打〕	〔十〕	〔箏〕	〔箏〕	〔琵琶〕	〔三線〕	〔尺八〕	〔尺八〕	〔笛〕
〔樂〕	〔器〕	〔絃〕	〔II〕	〔I〕	〔II〕	〔I〕	〔尺八〕	〔尺八〕	〔藤崎重康〕
〔揮〕	〔器〕	〔絃〕	〔II〕	〔I〕	〔II〕	〔I〕	〔尺八〕	〔尺八〕	〔坂田誠山・米澤 浩〕
									〔福田輝久・水谷雅康〕
									〔加藤 洋・田中悠美子〕
									〔半田淳子・山田まゆ美〕
									〔花房はるえ・内藤久子〕
									〔滝田美智子・松本和美〕
									〔宮越圭子・大畠菜穂子〕
									〔尾崎太一・細谷一郎（客演）〕
									〔田村拓男〕

## 四、組曲「人形風土記」第二番（初演）

長沢勝俊 作曲

〔指〕	〔打〕	〔十〕	〔箏〕	〔箏〕	〔琵琶〕	〔三線〕	〔三線〕	〔胡弓〕	〔尺八〕	〔尺八〕	〔笛〕
〔樂〕	〔器〕	〔絃〕	〔II〕	〔I〕	〔II〕	〔I〕	〔I〕	〔弓〕	〔尺八〕	〔尺八〕	〔藤崎重康・西川浩平〕
〔揮〕	〔器〕	〔絃〕	〔II〕	〔I〕	〔II〕	〔I〕	〔I〕	〔弓〕	〔尺八〕	〔尺八〕	〔宮田耕八朗・田嶋直士・水谷雅康〕
									〔坂田誠山・米澤 浩・素川欣也〕		〔畦地慶司〕
									〔太田幸子・加藤 洋〕		〔坂井敏子・田中悠美子〕
									〔半田淳子・田原順子〕		〔木村玲子・佐藤里美・内藤久子〕
									〔花房はるえ・熊沢栄利子・大畠菜穂子〕		〔宮本幸子・宮越圭子・松本和美〕
									〔尾崎太一・堅田啓輝〕		〔田村拓男〕

# 作曲者から

## 「桜川」について

田中友子

今回、この「桜川」を粒よりの演奏家ぞろいの音楽集団に取り上げて頂けましたことは、私にとって夢のような出来事でした。以前、楽器法も知らず、減茶々々の譜面で応募して落選したこともありましたが、今度もだめでもととの軽い気持ちで応募しました。審査員の伊福部・広瀬両先生が、私の好きな作曲家でいらしたことも動機の一つです。楽器法は、三木稔先生の「日本の楽器入門」(日本コロムビア)で勉強いたしました。

今日のお客様の中には、能楽の大家や、邦楽の大家もいらっしやいますので、私などがおこがましく桜川の解説をする気にはなりません。ただ、最初の一言を書き出す前に、舞踊家の藤間苑素娥さんに突然お電話をかけました。「桜川という邦楽曲があるかしら？」すると、「賤機帯はあるけれど……」と云う御返事でした。そして母の三味線譜をかきまわして、賤機帯を見つけました。勿論、それを参考にするという意味ではありません。桜子のことが気になったからでした。今日のこの曲の中では、私も桜子の母になったつもりで居りますので、探し求めるあわれを汲み取って頂ければ、望外の幸せてございます。

## 青のモチーフについて

佐藤敏直

青は紺、藍、群青、北斎の青、ミロの青、海の青、空の青、地球の青。  
青は、黄や緑、茶やグレー、そして丹や紫や黒によって、より一層の青になる。

この音楽では、下降する「ド・ソ・ファ・レ」の基調——名づけて青の音列——に、一層の青であるための彩色の要素を、楽器たちに分け与えた。  
曲は一楽章。編成は、日本音楽集団の標準編成と云われるものに拠って、十パーのアンサンブルとなった。

## 「恐ろしい音調の世界」

中村八大

年を経るにつれて、だんだんと邦楽曲の良さにひかれて来るようになった。特に日本音楽集団の演奏会へは、度々足を運び大いに楽しませていただいていた。  
ある日、「音楽集団の曲を書きませんか」と聞かれて大喜びした。さて、取りかかってみて、この音の少ない世界の表面に見えない奥の深さが底知れず見えて来て、

探れども探れども、とても手に負えない事がわかった。

日本の秋を書くつもりだったのが、何時のまにか中国大陸の秋になってみたりもした。少年期に中国で育った丈なのに、どうしてこうもカラッとした中国風の秋になってしまふのだろう。日本の秋を連想される方は、どうぞごかんべん下さい。日本以外にも秋はあるのです。

西欧の調性の世界の音楽界はすでに行きづまっている。このチャンスに、音の少ない、底知れず奥の深い邦楽の世界に、とっぷりと身体を浸らせて見たいと思っている。

## 組曲「人形風土記」第二番

長沢勝俊

日本には数多くの単純、素朴な郷土人形や郷土玩具がある。これらは、われわれが祖先から受けついできた生活や心を、しっかりと形におさめ、現代に受けつがれている。それは古拙ではあっても絶妙な美をもって今のわれわれに、何ものかを語りかけてくる。

私は十八年前、これらの人形に触発され、六つの素材をえらび作品を書いた。今回は、新たに五つの素材をえらび組曲「人形風土記」第二番としてまとめた。  
一、三春人形 福島県郡山の近くにある三春地方に、江戸時代から伝わる張り子人形。天神、トラ、玉うさぎ等、沢山の種類があるが、そのいずれもが軽妙かつおおらかで、人の心をとらえてはなさない。

二、いづめこ人形 いづめことは保温用にめしびつを入れるわら桶のことをいう。東北地方一帯には農繁期や冬期に、幼児をこのわら桶の中に入れて育てる風習があった。ほほえましいこの風習から郷土色豊かなこの人形が誕生したのだろう。  
三、すすきみみずく まだ江戸と呼ばれていたころの草深い武蔵野の面影をとどめているのが、このすすきみみずくである。豊島区雑司ヶ谷の鬼子母神境内で、お会式の前後に売られていたものである。すすきのふかふかした丸味を生かして、そのままみみずくの体にみだたてた奇抜なアイデアに感嘆させられる。

四、友引人形 関西よりはじまった風習といわれており、友引の日に葬式を出さねばならない時、棺の中にこの人形を入れてやったことからこの名がある。子供、大人を問わず、深く人形とかかわりながら生きてきた人間のいとなみを深く感じさせる。

五、凧 長崎地方では凧という字をハタとよむ。鎌倉時代には軍用として部隊の目印や、のろしの代用として使われた。以後日本全国に広がり、節句の祝いに、豊作への祈念や感謝へと、空へのあこがれと共に庶民の夢を大きくうたいあげてきた。  
(各人形の取材にあたっては彫刻家野口鎮氏の御協力を頂き、また人形の説明には斎藤良輔著「日本の郷土玩具」を参照した。)

# 日本音楽集団への提案

長尾 一雄

日本音楽集団が第一回コンサートを行なったのは一九六四年十一月十七日、第一生命ホールにおいてであった。当時私は「邦楽の友」という雑誌に月評記事を書きはじめたところで、邦楽界の動きをあまり知らなかったし、現代邦楽に対する認識も浅かった。前後して発足した藤井凡大氏の「日本合奏団」と、わが「日本音楽集団」との名前の上の混同が起って、楽団名を取りちがえて批評を書き、訂正記事を出したこともあったように記憶する。しかしそれは名前の上での混同であって、二つのグループの性格は私の耳のなかではもちろんはっきりしていた。私の耳には藤井氏のグループは洋楽的に美しく、日本音楽集団は邦楽的、といって悪ければ邦楽器的に聞こえていた。この第一回コンサートでも、楽器たちは交響的というよりは百花齊放的に鳴っていた。私はその時の印象をもとにして、「日本音楽集団はアンサンブルよりはゾリステンである」という評をのちに書いたことがある。そしてまた、三木稔氏の名作「くるだんど」について氏が語っている「日本楽器を荒々しく捉えた」ということばが、ひとつのテーゼとして長く私のなかに残っており、それらの印象やことばが、私のために現代邦楽ないしは現代日本音楽を認識するための大きなバネのひとつになったと言つてよい。

以後私と日本音楽集団との関係は、主として批評家という私の立場を通じてのものではあるが、徐々に永続する関係に入つて行つた。三木氏は自己の方向を常に模索しつつ前へ前へと進める人で、私の批評の見当違いや事実誤認に関してよく手紙をくれた。なかには激昂に近い手紙もあった。それは一九七〇年代に入つたころの、日本音楽集団が「荒々しい」急進的なものから汎自然的な音詩の世界を旨としたと思われる、三木氏の作品で言えば「くるだんど」の時代から「天如」の時代に入つたところからしばらくの間のことであつた。三木氏からそのような手紙をもらった入は私一人ではない。それは現代邦楽の熟した作品を次々に産み出しながら、熟すことにあき足らない三木氏と日本音楽集団の直面したさまざまなディレンマのなせる試行の苦しみと平行した、一種の苦悶の声であつた。

音楽が熟していくべきか、熟さないままに荒々あるべきか、それは一面的に答えてしまふわけに行かない難問である。もちろん三木氏が「荒々しく」と言ったのは戦闘的な、勇ましい曲を書こうと言つてゐるのではない。どの民族も自分の心の奥

を揺り動かすものを表現する手段を持つてゐる。その民族固有のことばで、民衆の心の動的な深まりをうたうことができる。日本の古典のなかにもそれはあるが、それを更に動的に、近世古典が鳴らさずに言外に秘しておいた部分をも音にして鳴らすということが現代邦楽にかかわる人たちがすべてお願いであらう。近世古典が一面で十分に熟した音楽であるならばそれを破らなければならない。しかしその欲求とちょうど逆行するように、日本音楽集団のレパートリーには近世古典の曲目が入つてきた。上代古典の、雅楽とはかなり初期から交渉があつた。三木氏の作風にも円熟が覆いはじめた。もう一人の作曲家、長沢勝俊氏の清澄な充実感のある作風が改めて評価されるようになってきた。ソロ活動や古典演奏の面で充実期を迎えて集団と行動を共にする時間的余裕を失つた演奏家たちが団員から団友格の存在に転ずることも多くなつて、集団の主要メンバーは若手中心になつた。このようにして、日本音楽集団は前衛グループというよりは現代邦楽の中心として、「荒々しさ」よりは重厚さと幅の広さを要求されるようになった。「天如」の時代になって間もなくの三木氏の作品に「わ」というユーモラスな作品があるが、日本音楽集団は戦いの集団から今や「和」の集団に発展したのである。

このことが集団の性格に照らしてよいことなのかには言えない。歴史の流れに沿つてのちのち振り返らなければわからぬことであらう。ともあれ日本音楽集団はこのところ玲瓏と美しい音楽をかなで続けている。昨年三木氏が音楽監督を辞任した時、みずからの企画で長沢勝俊氏の作品演奏会を開いたのは、「荒々しさ」に「美しさ」を先行させる日本音楽集団の現在を最もよく開示したイヴェントであつた。

国内の、そして時には国外のすぐれた作曲家をうながして多くの傑作を生み、日本楽器の表現の幅をひろげた、あるいは日本楽器の潜在能力を引き出したのも日本音楽集団の大きな足跡のひとつである。邦楽4人の会の室内楽活動と並んでその評価はすでにゆるぎないが、この「和」や「美しさ」の時代を通り過ぎるに當つて提案してみたいのは、古典邦楽系の作曲家に幅広く作品を委嘱してはどうかということである。かつての「荒々しさ」の時代は実験の時代であり、その実験的方向は邦楽派の作品傾向と相容れない点があつたと思われるが、整然とした作品群の時代から「和」の時代へ入つて来た今は、邦楽派の語法に耳傾けるべき機会ではなからうか。この二十年間に邦楽派の作曲家たちも、間接に日本音楽集団の活動等にも学びつつ若干の成長をした。その関係を今はデイスカッションの場に進めるべき時ではなからうか。そこに邦楽器音楽の新しい可能性がある。即ちここで私が委嘱というのはデイスカッションを伴う委嘱であり、それを通して今や邦楽器指揮者のエキスパートにもなりつつある田村拓男氏にも、より深い演奏の深淵に降り立ってほしいのである。

## 日本音楽集団創立二十周年に寄せて 〈アイウエオ順〉

私が日本音楽集団の存在を知り、コンサートに通いはじめてから十六年ぐらいいになります。集団が提供してくれた音楽によって、私の音楽体験はたいへん豊かになりましたし、仕事のうえでの貴重な問題提起もたくさんいただきました。心からの感謝とともに、二十周年のお祝いを述べさせていただきます。心をうつ演奏や作品に遭遇するとき、二十年の蓄積を喜ばずにはいられません。もう二十年は、まだ二十年でもあります。はたちの若者のいっそう大胆に挑発的な活動を！

池田逸子（音楽評論家）

創立二十周年おめでとうございます。「竹取物語」「八郎物語」と客演させて頂き、皆様の邦楽によせる情熱を肌で感じ、幾多の素晴らしい作品を聞く機会を得たことを心から感謝致して居ります。今や我国ではアメリカを始め西欧諸国の雑多な音を抱え込みその渦の中に溺れて終い「虫の声」等最早雑音になり果てつつあるのではないのでしょうか。そんな中でこの二十年の集団の歩んだ道はどれ程険しい道であった事でしょう。どうか今後も世界のNOSとして御活躍下さい。

稲垣隆史（劇団民芸）

外国でよくその人達に「あの日本からきた伝統楽器の素晴らしいグループがetc」と話をききました。日本の音楽は祭の場で活躍してきたものという意識もつよく、それが毎日の出来事になった今では集団の人達も多くの難しさを持ちながらの活動でしょう。しかし音楽は音楽のために、想像と理想とエロスの宇宙をさまようメディアとしてアメンバーのようにそこに存在だけのもの。国もイデオロギーもその光の影にかくれてほしいのです。

井上道義（指揮者）

私は四年前に日本に来て間もなく、日本音楽集団の演奏会を聴き、団員の人たちにも会えてすぐに親しい友人になることができました。三木さんからの話がきっかけとなり、日本音楽集団の中国公演実現にお役にたてたことは嬉しいことでした。集団の演奏会は中国人たちに深い印象を残しました。多くの知人から手紙を貰いましたが、中でも中国音楽家協会々長呂驥氏は「中国にきた外国の団体で、日本音楽集団が一番成功です」と云って来ました。私はこの四年の間に日本音楽集団からたくさんの勉強をしました。また特に私の作品を演奏会にとりあげて頂いたことは光栄です。

王 燕 蕉（作曲家）

創造集団が20年、しかも64/84という激動・激静のサイクルを生きたこと自体が驚異なのに、次々と新しい試みを成功させて熱心なファンを増してこられた事業は、もし最初からドキュメントで映像化されていたら、日本人の深層にある東洋のリズム、旋律が現代に再生する姿を集団の生身の人達の生き方、演奏、観客の反応を通じて貴重に記録していたらと思えます。時々実験的な演奏舞台の表現を共に創らせてきた一人として心からお礼お祝い申し上げます。

岡村春彦（演出家）

美しく清冽な音の流れに心を浸す幸福感、集団の演奏会は僕にとって贅沢なひとときです。合唱を通じ三木先生と知り合う幸運を得、創立間もない頃から聴かせて戴いた果報者です。長沢先生のお名前は、プークのむかしむかしの「桃太郎」を拝見し覚えていました。両先生に僕の拙い詩に作曲して戴いたり、感謝しております。集団ほどの魅力溢れるグループを僕は他に知りません。多くの人に集団の素晴らしい演奏を聴いて欲しいです。

小田切清光（詩人）

二十周年、おめでとうございます。「集団」の活動は非常に多彩で、私が感服している点はいろいろありますが、中でも特記すべきことは、徹底して民主主義に基づいて運営されている点です。師弟関係や雇用関係による団体とは違って、民主的な団体の運営にはいろいろと難しい点も多かったらうと推測しますが、逆に、それだからこそ多種目・多流派の人々を糾合して、長年月にわたって活動し続け得たのだと思います。これからもその姿勢を堅持して活躍されますように。

上 参 郷 祐 康（音楽学者）

長くそして短い二十年。国内外を問わない縦横の大活躍は日本音楽史上の特集号。この二十年、集団第一期の序破急であったようでもあり、第二期・第三期のそれへと更に躍進されるよう切望します。尚、今後、わかりやすい新しい邦楽、誰もが触手を動かされる新しい日本の音、日本の音の普及のために格段の努力をされますように。前途洋々の集団、未来の日本音楽を先取りしつつ前進する集団、バンザイ、バンザイ、もう一つバンザイ。

茅原芳男（小学校教諭）

創立二十周年、おめでとうございます。一九六〇年代のまだ現代の邦楽の黎明期に、大きな希望と情熱に燃えていた演奏会を今でもはつきりおぼえております。客席でも身を乗り出して聴いておりました。今ではその現代邦楽もすっかり落着いた状態になり、又集団も立派な団体に発展されました。しかしこれからが大変だと思えます。先人達の二十年の積み重ねは尊いものだと思います。どうぞ集団の後に続く若い方々、がんばって下さい。

菊池 悌 子（十七絃奏者）

創立二十周年おめでとうございます。正に邦楽界の金字塔と申せましょう。幾多の困難を乗り越えて、今日の日本音楽集団が存在することのみならず、止まることを知らない活発な創造活動を展開されている若さに敬意を表します。組織在任者は在京の皆様のように毎回の演奏会を聞けない状態にあります。せめて協会の組織を充実して、集団の息吹を肌で感じられるようなご指導のもとに地方支部の育成に力を貸していただけないものかと考えております。

斎藤 幸 山（日本音楽協会水戸支部）

二十周年、おめでとうございます。とかく保守的に思われている邦楽界の中で日本音楽集団の存在は貴重なものです。現代はオリジナリティというものが強く問われている時代だと思えます。特に音楽の場合では、多様性とその発展の時代をすぎ、新たなオリジナリティの時代に入っていると言ってもまちがいでないでしょう。日本音楽集団の個性とその存在は、二十周年をむかえさらに音楽界に強くこの問題へのメッセージを語るものと期待しています。

三 枝 成 章（作曲家）

日本音楽集団の二十年の足蹟は、わが国の伝統音楽の素材を、楽器を、そして精神を未来に向かい、世界に通用するものに創りかえました。その成果のめざましさ、意義は国内での評価、影響はもとより、海外でも多大の評判を呼んでいます。日本音楽集団の二十年の足蹟を、いまこそ声高らかに讃え、且つ、さらに未来に向けての発展を期待します。

菅野浩和（音楽評論家）

おめでとうございます。二十年の間、芸術上の成果だけでなく、経営や組織運営の面でも実績をつみあげられたこと、敬意を表します。日本の楽器による、この時代の音楽を生み出す仕事に、これからの成果をあげられますこと、おおいに期待しています。ことに、二十年という基礎的發展を上げられてからは、新しい日本楽器の音楽のあり方を、量と面積だけでなく、深さと、思想の上でも、落着いて追求して頂きたいと願っています。

助川敏弥（作曲家）

日本音楽集団設立以来二十年になるときいて今更ながら年のたつのは早いと思いました。戦後一時は邦楽が全く古臭い過去のものとして葬り去られようとした時代もあった位ですが、日本音楽集団の誕生は、邦楽四人の会と共に邦楽の伝統を新しい時代に生かした輝かしい功績を与えました。成人となった集団はこれから新しい展開が行なわれることと思えます。二十周年、五十周年、百周年とこの団体が常に日本の音楽界をリードして行つて下さい。

田辺秀雄（音楽学者）

集団の結成の頃は伝統芸術が低迷して居た時代でした。何とかしなくてはと皆が思つて居たのではないでしようか、では何をしたら良いのかと漠然とした中でただ、あせり悩むだけの、あの頃。封建的な伝統音楽のこれ迄の有り方を破り熱気と意欲にかり立てられる様に次々と新しい分野を開いて来た集団の歩み。そこに現代邦楽という新しい日本の音楽のあり方を創り出し、くすぶりがけて居た私たちに一つの道程を示して下さいました。芸術文化は常に前進が要求されるものです。二十年と言ふ節目に立ち一応定着した、否、横這い状態に入っている現代の邦楽に対し更にその上への飛躍をどうしたら宣しいか良き御指示と先駆者としてのこれからの歩みに大いに期待する者です。

丹野井成寿（箏曲教授）

創立二十周年を輝やかに迎えられましたことを、心よりお祝い申し上げます。

集団では、創造精神に富んだ個性の強い仲間たちと文芸部で七年間共に過ごしました。

その間、事務所の移転、練習場の確保、音楽教室の開始など、新たな展開をみせると同時に運営上の悩み多い時期でもありました。しかし団員相互の話し合いと若いエネルギーで苦難を乗り越え今日まで飛躍されてこれたことを感慨深く思います。

私は活気溢れる刺激の多い集団を離れてからも、当時培つた邦楽に関する知識を授業に生かしています。音楽集団も学校公演等に積極的にとり組んで戴きたいところです。一層のご活躍を期待致します。

鶴野和子（県立高教諭）

二十年という長い年月にわたつて、今日の日本の、新しい独自の音楽の創作の道を切り拓いてこられたことに、心からの敬意を表します。これまでも様々な困難を乗り越えてこられたことと思いますが、その逞しい力の上に、新たな若々しい力も加えて、絶えず新陳代謝を行ないながら、今後ともますます発展して、いいお仕事を積み重ねてゆかれることをお祈りしております。

戸口幸策（音楽学者）

ひと口に20年といつても、貴集団にとつて、大変な忍耐と努力、そして輝かしい20年であったと思います。常に新しいものを追い続け、マンネリズムに陥らず、技術の向上と人の和を両立させ、音楽性と経済性をうまく運営された業績は広く世界に認められ、高い評価を得られたものと考えます。我々も常に貴集団に教えられ、伝統の都でやっと15周年を終えました。日本の伝統楽器による新しい音楽をめざして益々のご発展を祈念いたします。

富井宏（京都邦楽グループ代表）

創立二十周年を心からお祝い申し上げます。次の二十年に向けてさらに飛躍されることを期待してやみません。

中河原理（音楽評論家）

おめでとうございます。「伝統楽器で現代に生きる新しい音楽の創造」をめざした成果は90%成功したと思います。一九七〇年に作られた三木稔の音楽（芸術祭大賞受賞レコード）は、日本の音楽家として持つていなければならないレコードである、と思ひ買いました。最近、自分の仕事が悪く十分のため、なかなか聴きに行けず残念に思っています。日本音楽集団のこれからの課題は、大衆（質の高い）のファンに更に親しみの持てる音楽を創造してゆくことでしょう。

中田喜直（作曲家）

二十年という歳月を考えると、何よりも先ずこのグループを生み、育ててこられた諸先生諸先輩の方々に心から敬意を表せずにはいられません。

今後ともますます精緻かつ精彩を放つ、そしてより良く音楽する集団であり続けて下さるよう願っております。

新実徳英（作曲家）

創造する仕事にかかわることは、個人、集団を問わず、その根本に熱気がたぎっていないければならないと考えます。

音楽集団が、ときに華やかに盛り上り、ときに内なる渋滞をも乗り越えて、二十周年を迎えたことは、集団の方々一人一人が、音楽に対するはげしい熱気を高揚させ、それを集積した結果だと思ひます。

二〇〇年の重みの上に立つて、その熱気は、絶えることなく、次なる創造に向うことでしょう。そして、又、私達を素晴らしい音楽で楽しませてくださることを期待します。

野口鎮（彫刻家）

二十周年おめでとうございます。今日までの音楽集団の動きは先ず始めに事務所づくりから毎年数回の演奏会を開催し若手を次々と育て、世界をめざしての二十年間。さまざまな楽器奏者の集りの会員をよくごこまごまとめられた指導者の方々へ又、団員の皆様の長い間の御苦勞に対し心からの敬意を表し、今後ますますの御発展をお祈り申し上げます。

野坂操寿（松の実会家元）

創立二十周年おめでとうございます。集団が二十周年ということは、まさに現代邦楽の歩みが二十年という歴史を持ったということにも過言ではないと思います。思えば、昭和三十九年当時は、大阪にいて現代の日本音楽のラジオ番組の解説などを担当していました。その当時は、関西にも集団のような団体が生まれなければと力説していたような気がします。今では、日本音楽集団といえば、世界的に有名となったと思います。今後の一層の発展を祈ります。

平野健次（音楽学者）

集団の歩みに光栄ある二十年の、未来には豊かな稔りの、美しい、ひたすらな道があり、それを歩み続ける集団のみなさんに、世界に誇り得る《日本音楽》と一九八四年の期待と祝福が重なり合っている……。

古橋富士雄（NHK東京放送児童合唱団常任指揮者）

日本音楽集団誕生の産声を風の便りに聞いたのが十七歳の時、そして何年かを経て名古屋で「人形風土記」と衝撃的な出会い、一九七九年十月には塚本早苗さんらによる合奏団結成への協力など、青春時代の何ページかを彩る集団との数々の巡り合い。次の十年、二十年に向けてより多くの音楽家が集い、さらに磨きのかかった作品が生み出され集団が益々発展することを祈ります。いつまでも私たち合奏団のよきリーダーとして……。二十周年おめでとうございます。

水野正徳（グループ・みずほ）

日本音楽集団が創立二十年ときき、いまさらのように驚き感慨無量である。この集団の二十年の実績を思うと、その活動力のすばらしさ、その影響力の至大なことなどエトセトラで、短文で記すのは不十分になり、意をつくがたい。とにかく、これほど信念に生き、意欲満々、不撓不屈で活動を続け、常に前進してきた団体も珍らしい。

二十周年には種々の記念事業もあろうが、その区切りを潮にまた新たな意気込みで活動を。

宮沢縦一（音楽評論家）

「伝統楽器で現代に生きる創造」という大変な命題をかかげて、20年。今や音楽には東洋も、西洋もなく、東も西もなく、渾然一体となりつつあるのは、時の流れの厳然とした事実ではある。しかし、ともすれば、島国根性の日本人にはこの現実認識がやや希薄である。そんな時にあって、日本音楽集団の、これからなさねばならないこと、存在理由は極めて大きい。団員一同の更に御研讃と御加重を祈り、一層の前進を祈ります。

村松真樹（音楽新聞）

創立二十周年おめでとうございます。私の心の中で音楽の革命とも思った日本音楽集団との出会い。幼少のころから西洋音楽一辺倒という学校教育の中で育ってきた私には新鮮とおどろきでした。西洋音楽が日本に入って来た明治時代から、こういう音楽で学校教育もスタートすべきだったのではないかと。そうすれば今頃はもっとと独自の日本音楽が創り出されていたのではないかと残念な気がする、というのも日本音楽集団の音楽を知ったからこそいえることなのでしょう。

柳家小三治（落語家）

二十年ふたむかし。創立当時の仮の名「日本音楽集団」は、何時消えるやも知れぬ一本のロウソクでした。十四人のメンバーは一生懸命力を合わせ情熱を燃し、その灯を支えてきました。それが今ではあの頃想像もつかぬ大きな火の玉となり、内外の音楽界でも高く評価される強い団体となりました。

今後共、初心を忘れず一致団結、きびしい修練と困難に打勝って、先輩の築きあげた基盤を更に積重ね、やがてはUFOとなって逞しく羽搏いて下さることを希います。

山田美喜子（日本音楽集団名誉団員）

二十周年心からお祝い申し上げます。日本音楽集団結成の折には、私もいろいろお世話になり、非常になつかしく感じていました。年々、すばらしい企画のもとに、活動され、いつも敬服しています。メンバーも第一回から多くなり益々内容も充実する事でしょう。古典から現代音楽まで自由にこなせる集団は数ありません。これが何ととっても大きな魅力です。伝統楽器による新しい音楽への創造を目指し、益々発展されます様、祈っています。

山本邦山（尺八演奏家）

日本音楽集団創立二十周年おめでとうございます。私が集団の生の音を耳にしたのは今から十年程前でした。その時はさしたる感激もなく終了しましたが、何時の間にか協会合奏団「游」を仙台の地につくり、二十絃を導入して早や六年目。短期間のうちに私をこまごまと行動させた集団の魅力は？。一つは邦楽器サウンドが新鮮だったこと。もう一つは二十絃のソロ楽器としての存在感でした。今後は現代の風潮に流されず、日本音楽集団としての矜持と信念を持って活躍して下さい。

山本昌子（箏演奏家・合奏団「游」）

長い困難な道を克服して、ここに創立二十周年を迎えられたことに、心から敬意を表し、お祝い申し上げます。我々日本人がそのアイデンティティーとして、どのような音楽を確立していくかは大きな課題であります。その意味で、日本音楽集団の活動はきわめて意義深いものと考えます。これからの道も決して平坦ではないと思いますが、いっそうの情熱をもって、格調ある活動を展開されますよう切に祈り上げます。

横溝亮一（音楽評論家）

邦楽というと拒絶反応をおこす人々たちも、日本音楽集団の演奏をきけば、新鮮な現代音楽として大いに共感するでしょう。戦中戦後と、歌舞伎に耽溺してきたわたしは、もちろん伝統音楽は好きですが、その演奏会のロビーなどはじめません。演奏者のお弟子さん関係で華やき、若い熱気が感じられないからです。しかし、日本音楽集団の会では新しい聴衆が育っているのを見て頼もしくなります。すばらしい成果をあげての創立二十周年。その情熱の灯をいつまでも――。

鷲尾星児（芸能研究者）



# 二十絃箏

オリジナル立奏台

箏を愛するすべての人の繊細な感情を忠実に音に表現するために、楽器の本質を追求した箏

日本音楽集団推薦

# 琴光堂和楽器店

東京都目黒区碑文谷2-19-15 TEL (792)8481

露秋銘 尺八

西田露秋

〒794 今治市新谷新田甲798

電話 0898-48-1097・1257



回・日付・会場	曲名・作曲者等	指揮・客演
<b>関西4</b> 一九七八・一二・二二 京都都会館第二ホール (第四回関西定期)	調 藤舎成敏 飛驒によせる三つの バラード 長沢勝俊	指揮・田村拓男 客演・荒谷俊治 TCF合唱団 東京リ ーダーターフェル有志
<b>49</b> 一九七九・一・二二 都市センターホール (創立十五周年) (第三回公募作品初演)	序と四つの子供のうた 小宮傑 飛驒によせる三つの バラード 長沢勝俊 史魂 杵屋正邦 (委嘱初演)	指揮・田村拓男 客演・T C F合唱団 東京リ ーダーターフェル有志
<b>50</b> 一九七九・一・二三 都市センターホール (創立十五周年)	鹿の遠音 八本の尺八による 宮田耕八朗編	指揮・田村拓男
<b>51</b> 一九七九・三・二一 朝日生命ホール (日本の四季・ 西洋の四季)	邦楽器のための「心」 高橋雅光 ヴィヴァルディ 角田圭伊悟編	指揮・田村拓男 客演・菊地悌子(十七絃) 矢崎明子(三味線) 大窪永夫(箏)
<b>52</b> 一九七九・五・八 都市センターホール	黄金の花咲く 管楽器奏者構成 まゆだまのうた 尺八・坂田誠山 箏・白根きぬ子	指揮・田村拓男 客演・大窪永夫(箏)
<b>53</b> 一九七九・六・八 青山タワーホール (邦楽器と綴る四つの物語)	箏と尺八による馨 田村拓男 三絃と箏のための二重 奏曲No.1 藤舎成敏 キビタキの森 (初演) 宮田耕八朗	指揮・田村拓男 客演・大窪永夫(箏)
<b>54</b> 一九七九・七・六 青山タワーホール (演奏家による作曲への アプローチ その二)	迦楼羅やの歌 畦地慶司 箏と尺八による馨 田村拓男 三絃と箏のための二重 奏曲No.1 藤舎成敏 キビタキの森 (初演) 宮田耕八朗	指揮・田村拓男 客演・大窪永夫(箏)
<b>55</b> 一九七九・一〇・一〇 都市センターホール (芸術祭協賛)	運命の楽人 山田美喜子作詞 山崎旭萃作曲 一郷 半田淳子	指揮・田村拓男 客演・大窪永夫(箏)
<b>56</b> 一九七九・一一・九 青山タワーホール (琵琶特集その二)	師走の一夜・一年の喜奴哀楽を眼と耳で 尺八協奏曲 長沢勝俊 尺八・宮田耕八朗 春響 佐藤隆	指揮・田村拓男 客演・大窪永夫(箏)
<b>57</b> 一九七九・一二・七 青山タワーホール (かぐら一九七九)	新越後獅子 藤舎成敏・ 内田とも子編 尺八・宮田耕八朗 春響 佐藤隆	指揮・田村拓男 客演・大窪永夫(箏)
<b>58</b> 一九八〇・五・八 都市センターホール	雨の向うがわて 池辺晋一郎 尺八協奏曲 長沢勝俊 尺八・宮田耕八朗 春響 佐藤隆	指揮・井上道義 客演・大窪永夫(箏)



回・日付・会場	曲名・作曲者等		指揮・客演
68 一九八二・一一・一二 青山タワーホール (ふるさとのうたに に残る小品を集めて)	ふるさとのうた 長沢勝俊 佐渡おけさ 福島雄次郎編 秋、そして 三木稔	「八郎物語」より さす らい、津波とたたかう 三木稔 のろま人形 長沢勝俊 水巡る 三木稔 木うそ 長沢勝俊	ニポポ 長沢勝俊 飛驒によせる三つのパ レード 長沢勝俊 おてもやん 三木稔
69 一九八二・一一・二九 青山タワーホール (ソロとコンチェルトの夕べ)	冬の一、日・パート2 長沢勝俊 より 叙楽 永瀬博彦	箏協奏曲 長沢勝俊 箏・花房はるえ 風漣 助川敏弥	霜夜の砧 柴田南雄 尺八・三橋貴風 一九八二年五月十日 三枝成章 (委嘱初演)
70 一九八二・五・一〇 都市センターホール (委嘱作品特集一)	まゆだまのうた 長沢勝俊 尺八・米澤浩 箏・花房はるえ 特集	田村拓男 尺八・竹井誠 箏・宮越圭子 ひなぶり 三木稔 尺八・田嶋直士 二十絃箏・内藤洋子	二十絃箏と尺八のため の二重奏曲 堀悦子 尺八・三橋貴風 二十絃箏・吉村七重
71 一九八二・六・一〇 青山タワーホール (尺八・箏二重奏曲 特集)	平和への前唄 内田とも子 (初演)	碓知盛 作曲・琵琶・ 半田淳子	義太夫一谷嫩軍記 熊谷陣屋の段 浄瑠璃・竹本駒之助 三味線・坂井敏子
72 一九八二・七・七 青山タワーホール (平和コンサート)	芸術祭コンサート へ東西楽器群の融合 三木稔へ鳳凰三連	序の曲 尺八・坂田誠山 二十絃箏・吉村七重 太極三味線・坂井敏子	火の華ばやし 監修・若山胤雄 構成・安部久恵
73 一九八二・一〇・九 ゆうぼうと簡易保険ホール	秋 望月太八 箏・望月太八 西川浩平 太鼓・堅田啓輝	紫苑 山本邦山 尺八・三橋貴風 十七絃・宮本幸子	秋「子供の四季」より 長沢勝俊 玉桂 長沢勝俊 三味線・杵屋静子
74 一九八二・一一・三〇 青山タワーホール (詩と音楽・秋を謳う)	デイヴエルトイメント 佐藤敏直	秋の調べ 宮城道雄 唄・安達千枝子 尺八・宮田耕八朗 箏・白根きぬ子	秋、そして「四季」より 三木稔 孤 杵屋正邦 太極 坂井敏子 キビタキの森 作曲尺八・宮田耕八朗 箏・吉村七重
75 一九八三・一一・二五 青山タワーホール (ソロとコンチェルト の夕べ二)	みち 長沢勝俊	阿伝 作曲・胡弓・畦地慶司 三絃・坂井敏子 流琵琶 三木稔 琵琶・田原順子	秋の曲 三木稔 尺八・坂田誠山 二十絃箏・野坂恵子 大津絵幻想 長沢勝俊
関西 8 一九八二・一一・一〇 京都府立文化芸術会館 (第八回関西定期)	長沢勝俊	コンチェルト・レクイ エム 二十絃箏・野坂恵子 エム 二十絃箏・宮越圭子 三木稔 コンチェルト・レクイ エム 二十絃箏・宮越圭子 三木稔 孤響 三木稔 尺八・田嶋直士	構成・演出・末永明光 企画・花房はるえ 芽生え 三木稔 二十絃箏・内藤洋子 流しびな 長沢勝俊 風の花、エピソード 三木稔
	構成・指揮・高橋明邦	指揮・田村拓男	指揮・田村拓男
	構成・高橋明邦 客演・西潟昭子(三味線)	指揮・国分誠	指揮・国分誠

回・日付・会場  
曲名・作曲者等  
指揮・客演

76 一九八三・五・一六  
朝日生命ホール  
(集奏名作十八番より)  
新八千代獅子  
日本音楽集団編  
古代舞曲による  
パラフレーズ  
三木稔  
コンチエルト・レクイエム  
三木稔  
二十絃箏・野坂恵子  
子供のための組曲  
長沢勝俊

77 一九八三・六・一七  
青山タワーホール  
(コンクール優勝者によるソロとデュエットの夕べ)  
華やき  
三木稔  
竹籟五章  
諸井誠  
尺八・三橋貴風  
船弁慶  
橘旭宗  
二十絃箏と十七絃箏のための二つのファンタジー  
入野義朗  
二十絃箏・吉村七重  
十七絃・木村玲子  
千鳥の曲  
長沢勝俊編  
秋の言葉  
うたと箏・宮越圭子  
木村玲子  
宮本幸子  
水の変態  
宮城道雄  
うた・田原順子  
箏・白根きぬ子  
宮本幸子  
構成・宮田耕八朗  
客演・真鍋静勢(うたと箏)

78 一九八三・七・一二  
青山タワーホール  
(箏曲の巨匠たち)  
六段の調  
三木稔編  
箏・花房はるえ  
三絃・坂井敏子  
楓の曲  
うたと箏・坂井敏子  
秋の言葉  
うたと箏・宮越圭子  
木村玲子  
宮本幸子  
指揮・田村拓男

79 一九八三・一〇・五  
朝日生命ホール  
(長沢勝俊作品集)  
楓踏―箏と打楽器のための音楽  
飛驒によせる三つのバラード  
尺八協奏曲  
尺八・宮田耕八朗  
鳥と砂と海と  
(初演)  
ファンタスマゴリア  
指揮・田村拓男

関西9 一九八三・一一・九  
京都府立文化芸術会館  
(第九回関西定期)  
六段の調  
三木稔編  
秋の曲  
尺八・田嶋直士  
二十絃箏・吉村七重  
ともしび三章  
長沢勝俊  
三重奏曲  
宮田耕八朗  
尺八・宮田耕八朗  
箏・木村玲子  
十七絃・滝田美智子  
四季―ダンス  
コンセルタントI  
三木稔  
指揮・田村拓男  
稲田康

80 一九八三・一二・二  
芝abc会館ホール  
(中国音楽との出逢い)  
瑶族舞曲  
内田とも子編  
(日本初演)  
清水江の夜、尺八と二十絃箏のために、  
王燕樵  
雁南飛  
箏子協奏曲  
張暁輝  
十面埋伏  
王燕樵  
四群のための形象より「擣」  
三木稔  
香―かがわしき琵琶の音によせて  
長沢勝俊  
指揮・田村拓男  
賛助・王燕樵(指揮) 張暁輝(箏子)  
杜菊衷(二胡)

81 一九八四・一・二七  
芝abc会館ホール  
(伝統楽器のさまざまの魅力)  
三木稔  
野坂恵子編  
鳳来  
畦地慶司  
ともしび三章  
長沢勝俊  
鄂曲鬢多々良  
伊福部昭  
指揮・田村拓男  
客演・砂崎知子(胡弓) 芝祐靖(竜笛) 大窪永夫(箏築)  
多忠磨(笙) 渡辺恭一(Cb) 伊藤映子(打)

82 一九八四・五・一六  
朝日生命ホール  
(創立二十周年記念)  
デイヴエルトイメント  
佐藤敏直  
胡弓三章  
牧野由多可  
尺八三重奏曲  
清瀬保二  
福田輝久・藤崎重康  
雨月譜  
吉松隆  
客演・新実徳英(指揮)

83 一九八四・六・一一  
芝abc会館ホール  
(創立二十周年記念)  
花と風  
中村滋延  
行  
伴谷晃二  
笛・藤崎重康  
琵琶・半田淳子  
永瀬博彦  
尺八・三橋貴風  
十七絃・木村玲子  
交響的幻想曲「朱輪金鈴」  
長沢勝俊  
組曲「人形風土記」  
第二番  
長沢勝俊  
客演・稲田康  
客演・伊藤映子 目黒一則  
細谷一郎(打)

84 一九八四・七・六  
芝abc会館ホール  
(創立二十周年記念)  
二つの舞曲  
長沢勝俊  
太棹協奏曲  
牧野由多可  
太棹・田中悠美子  
雨の向うがわで  
池辺晋一郎  
秋のコンチエルト  
中村八大  
指揮・田村拓男  
稲田康

85 一九八四・九・五  
朝日生命ホール  
(創立二十周年記念)  
桜川  
田中友子  
(創立二十周年記念作曲公募第一位)  
「日本音楽集団作曲賞」  
青のモチーフによるコンポジション  
佐藤敏直  
秋のコンチエルト  
中村八大  
組曲「人形風土記」  
第二番  
長沢勝俊  
指揮・田村拓男  
稲田康

# 20年・思い出のアルバム (国内版)



▲伝統音楽シリーズIII  
梅若能楽堂にて(1974年)

▼NHKテレビに出演



▲1966年 古代舞曲によるパラフレース  
演奏中の集団 第一生命ホール



▲創立15周年記念コンサート  
都市センターホール (1979年)



▲音楽之友社賞  
受賞(1978年)



▲第67回定期演奏会  
児童合唱・邦楽器群のため  
のお伽草子 NHK東京放  
送児童合唱団とリハーサル  
中 新宿文化センター  
(1981年)

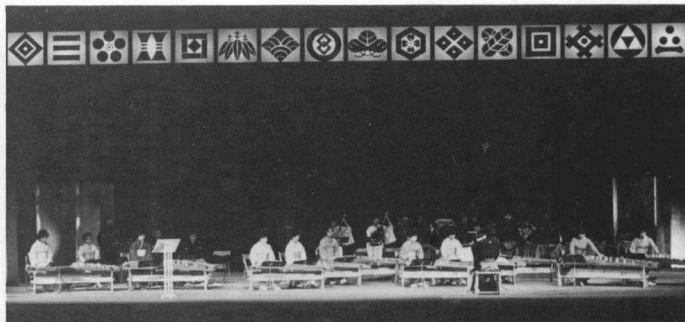
▶芸術祭大賞(レコード)受賞記念  
パーティー  
(一九七〇年)



▶第三回関西定期  
大阪厚生年金会館 (一九七七年)



▲夏の合奏研究会 北軽井沢にて



▲芸術祭祝典演奏を二期会と共に行う(1977年 国立劇場)



▲▼メルボルンのステージで学生さんたちと交流



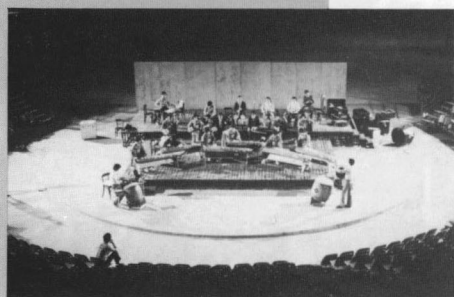
▲1972年 プラハ(チェコ)にて演奏会后サインのサービスをする田村



▲1972年 ベオグラード(ユーゴ)にて こんな着物(?)を試したことも……



▲1975年ウェリントンにて



▲1978年 アテネ音楽祭  
リカベタス野外劇場でのリハーサル



▲1978年 スイスの休日 ユングフラウ  
ヨッホへの登山電車



▲1976年 ミドルヴァリー・カレッジ  
(アメリカ・ヴァーモント州)にて



▲1981年 サンピエトロ寺院(ローマ)  
ヴァチカン広場にて



▲1981年 シシリー島(イタリア)からの  
フェリーの中で… 前夜カターニャの  
コンサートを聴いた高校生たちと一緒に



▲1978年 ゲーテ博物館前にて  
(東独・ワイマール)



# ◆日本音楽集団海外公演記録抄

(別に各回毎のくわしい記録と報告があります。事務所にて実費コピーします。)

## 第一次 (一九七二・九・十四—十・二二)

〔特徴・主催地〕

海外初公演。四年間の準備と多様な公演。東西ヨーロッパ七ヶ国を廻り四音楽祭参加、十四放送機会。日本音楽集団主催、国際文化振興会助成、マネージメント(東欧分)日本電波ニュース社。

〔演奏日・演奏地〕

- 九・十七 ゲント(ベルギー)―フランドル音楽祭 ラジオ録音、以下②と略す
- 九・十八 ブラッセル―BRTテレビ録画
- 九・二二 ケルン
- 九・二二 ケルン

- 九・二七 ベルリン(西)―ベルリン芸術週間②
- 九・二九 プルノ(チェコ)―プルノ国際音楽祭 ⑦
- 九・三〇 プラハ ⑦
- 十・二 ウィーン―ORF公開録音 ⑤
- 十・三 ミュンヘン―バイエルン放送⑤
- 十・三 ミュンヘン
- 十・五 ザグレブ(ユーゴ) ⑤
- 十・九 ベオグラード―ベオグラード音楽祭 ⑤⑦
- 十・十 ソムボル(ユーゴ)
- 十・十三 プロブデイヴ(ブルガリア)
- 十・十五 ソフィア ⑦⑧

- 十・十六 ガプロボ(ブルガリア)
  - 十・十七 ルセ(ブルガリア)
  - 十・十九 クライオパ(ルーマニア) ⑦
  - 十・二十 ブカレスト ⑦
- 〔参加団員〕望月太八・宮田耕八朗・坂田宏聡  
三橋保源・杉浦弘和・山田美喜子・半田綾子  
坂井とし子・白根きぬ子・野坂恵子・宮本幸子  
清水義矩・尾崎太一・高橋明邦・増田睦実(団友)・田村拓男・長沢勝俊・三木稔(公演プロデューサー、以下Pと略す)・中島宗夫・中島隆・関田正幸(日本電波ニュース社)  
(自主参加)霜島素子・吉村七重・池上早苗(団外)・富樫康他

## 第二次 (一九七四・十一・二五―十二・十七)

〔特徴・主催地〕

初のアジアでの公演。国際交流基金主催で御諏訪太鼓と帯同。全招待制。

〔演奏日・演奏地〕

- 十一・二七 ジャカルタ―RRIホール⑤⑦
- 十一・二八 ジャカルタ―RRIホール⑤
- 十一・二九朝 ジャカルタ―RRIホール
- 十一・二九夜 ジャカルタ―RRIホール⑤
- 十二・二 デンパサル(バリ島) ⑤

- 十二・三 デンパサル
- 十二・七 サイゴン―青年生活センター
- 十二・八 サイゴン―青年生活センター⑦
- 十二・九 サイゴン―青年生活センター
- 十二・十午後 サイゴン―青年生活センター
- 十二・十夜 サイゴン―青年生活センター
- 十二・十一 サイゴン放送―テレビ局録音⑦
- 十二・十三 マニラ―CCPホール
- 十二・十四 マニラ―CCPホール

- 十二・十六朝 フィリピン大学ホール
  - 十二・十六昼 イリスト大学ホール
  - 十二・十六夜 マニラCCPホール
- 〔参加団員〕望月太八・宮田耕八朗・坂田誠山  
三橋保源・杉浦弘和・半田綾子・坂井とし子  
野坂恵子・砂崎知子・吉村七重・宮本幸子・尾崎太一・高橋明邦・堅田啓輝・増田睦実・田村拓男・長沢勝俊・三木稔(P)

〔演奏曲目〕子供・二つの舞曲・のろま(長沢作品)・バラ・凸・天如・芽生え(三木作品)・風、古典より獅子・三重・崩れ・鶴の巣籠り・鹿の遠音

## 第三次 一九七五・二・二七―三・十三

〔特徴・主催地〕

大洋州公演。地元統一オルガニゼーションによる整然とした受入れ。集団主催、文化庁助成、日本ゼネラルアーツ社マネージメント。

〔演奏日・演奏地〕

- 三・一 パース(オーストラリア、以下同じ)
- 三・二 アデレード Aプロ

- 三・三 シドニー―オペラハウス・コンサート・ホールにて Bプロ
- 三・四 キャンベラ Bプロ
- 三・六 メルボルン Aプロ
- 三・七 ホバート Bプロ ⑤―録音が
- 三・十 ウェリントン(ニュージーランド) Aプロ ⑧

- 三・十一 オークランド(同) Bプロ
- 〔参加団員〕鯉沼広行・宮田耕八朗・坂田誠山  
三橋保源・杉浦弘和(シドニー以降)・野口美恵子・山田美喜子・半田綾子・坂井とし子・池上早苗・尾崎太一・藤倉成敏(シドニー以降)  
高橋明邦・清水義矩・増田睦実(団友)・長沢勝俊・三木稔(P)・霜島素子・中島隆

〔演奏曲目〕Aプロ―ねとり・凸・屋台・四季の曲・崩れ・萌春(長沢曲)・二つの舞曲 Bプロ―人形・崩れ・鶴の巣籠り・奔手(三木曲)・獅子・天如・バラ

# 第四次 (一九七六・二・十五—三・二一)

〔特徴・主催地〕

初の小編成。初のアメリカ・カナダ。カーネギーホール大学巡回。(わ)初演。集団とニューヨーク・アジア・ソサエティ共催、文化庁助成。

〔演奏日・演奏地〕

- 二・十六 トロント(カナダ)
- 二・十八 ニューヨーク州コーネル大学
- 二・二十 インディアナ州アラメ・カレッジ
- 二・二十 同右—レクチュア・コンサート
- 二・二二 ヴァーモント州ミドルヴァリー・カレッジ
- 二・二三 同右—レクチュア・コンサート

二・二四 ブルックリン・カレッジ—ヴィデオ撮り

- 二・二五 ニューヨーク—カーネギー・ホール
- 二・二六 ニューヨーク—ノンサッチ録音
- 二・二七 マサチューセッツ州アムハースト大学—レクチュア・コンサート
- 二・二七 同右—コンサート
- 二・二九 ワシントンD・C—スミソニア
- 三・一 テネシー大学
- 三・三 ベンシルバニア州ピッツバーグ大学
- 三・四 ミシガン大学—レクチュア・コンサート

三・四 シンサート

- 三・五 同右—コンサート
- 三・五 シカゴ大学
- 三・六 ミズーリ州セントルイス(招待コンサート)
- 三・七 ミズーリ州ワシントン大学
- 三・八 アイオワ州コーネル・カレッジ—レクチュアコンサート
- 三・八 同右—コンサート
- 三・一二 ハワイ大学ヒロ—レクチュア・コンサート
- 三・一四 同右—コンサート
- 三・一六 ハワイ大学ホノルル—レクチュア

ア・コンサート

- 三・一九 同右—コンサート
- 〔参加団員〕宮田耕八朗・杉浦弘和・野坂恵子(ハワイ分は吉村七重)・宮本幸子・半田綾子(三木稔P)(わ)の打楽器も兼ねる)・白根きぬ子(カーネギー・ホールのみ)
- 〔演奏曲目〕鶴の巢籠り・五段砧・扇的的・吾妻獅子・萌春・奔手・竜田の曲(三木曲・わ(この旅行のために三木稔が作曲)。レクチュア・コンサート用特別メニューも作った。

# 第五次 (一九七八・八・二九—十・二六)

〔特徴・主催地〕

世男一周公演。最大(期間・参加人員・国数・演奏数・聴衆数・経費など)規模。初野外公演。カーネギー・ホール再び。メイン・プロは暗譜。スイスの休日。集団主催、国際交流基金助成、一部募金、ジャパン・アーツ社マネージメント。

〔演奏日・演奏地〕

- 八・三一 ベルリン(東)—日本・東独経済交流記念式典出演 ㉞
- 九・三 プラウエン(東独)
- 九・五 ライプツヒ(東独)
- 九・七 デッサウ(ウ)ここまで先発組
- 九・十二 アテネ—アテネ音楽祭・リカベタス野外劇場
- 九・十三 アテネ—雨のためオペラ劇場で
- 九・十五 ロンドン—クイーン・エリザベ

ス・ホール ㉞

(このあとスイス・ルチェルンでの公演が中止で快晴の休日がつづく)

- 九・二五 ライプツヒ(東独)
- 九・三十 マクデブルグ(ウ)—音楽祭
- 十・二 エルフルト(ウ)—音楽祭
- 十・三 ベルリン(ウ)—テレビ録画 ㉞
- 十・四 ベルリン(ウ)—ベルリン音楽祭
- 十・五 ベルリン(ウ)—ベルリン音楽祭
- 十・七 ブカレスト(ルーマニア) ㉞
- 十・九 クルージュ(ウ)—音楽祭
- 十・十 サツマーレ(ウ)
- 十・十一 オラデア(ウ)
- 十・十三 ブラチスラバ(チエコスロバキア) ㉞
- 十・十五 |ブラチスラバ音楽祭
- 十・十七 トロント(カナダ)
- 十・十七 ニューヨーク—ノンサッチ録音

十・十八 ニューヨーク—ノンサッチ録音

- 十・十九 クイーンズ・カレッジ(ニューヨーク)—レクチュア・コンサート
- 十・二十 ニューヨーク—カーネギー・ホール再び
- 十・二二 シカゴ
- 十・二三 ノースウエスタン大学(シカゴ)—レクチュア・コンサート
- 十・二三 ミネアポリス(ミネソタ州)
- 十・二四 ミネソタ大学—レクチュア・コンサート

畦地慶司(先)・尾崎太一・藤倉成敏・堅田啓輝・高橋明邦(先)・田村拓男・長沢勝俊・三木稔(P)・奈良義寛(先)・中島隆・久保敬義(ジャパン・アーツ社、先)

〔演奏曲目〕フアンタスマゴリア・三味線協奏曲・萌春・颯踏(以上長沢作品)、巨火・ダンスコニI・華やぎ・流琵琶・譚詩集I・文様II(以上三木作品)、調(藤倉、春鳳(畦地)、古典及びその編曲として新八千代獅子・鹿の遠音・鶴の巢籠り・扇的的

〔参加団員〕西川浩平・宮田耕八朗・坂田誠山三橋貴風(先発組)・杉浦弘和・太田幸子(先)半田綾子(先)・田原順子・坂井敏子・野坂恵子(ギリシヤ・イギリス・カナダ・アメリカ)吉村七重(先)・滝田美智子(東欧)・砂崎知子花房はるえ(先)・宮越圭子(先)・木村玲子

# 第六次 (一九七九・七・九—七・二三)

〔特徴・主催地〕

第一回インターアーツ・フェスティバルという単一音楽祭に参加。ハワイ大学主催。文化庁助成

〔演奏日・演奏地〕

七・十一 ハワイ大学オルヴィス・オーデイトリウム—音楽祭①

七・十二 ホノルル—日系婦人会二十五周年記念の会に出演

七・十四 ハワイ大学—音楽祭②

七・十八 ハワイ大学—音楽祭③

七・十九 ハワイ大学—音楽祭野外

七・二一 ハワイ大学—音楽祭④  
(註)期間中、他に数回のワーク・ショップと

三木の作曲レクチュア・日系テレビ出演があった。

〔参加団員〕望月太八・坂田誠山・田嶋直士・太田幸子・半田淳子・野坂恵子・砂崎知子(十三日より)・花房はるえ・田嶋恵美子・尾崎太一・堅田啓輝・田村拓男・三木稔(P)

〔演奏曲目〕人形・颯踏・フアンマゴ・萌春、

前奏曲(三木曲)・華やぎ・ねとり・凸・ひなぶり・竜田・ダンスコンI、伎王(半田曲)・坐楽(永瀬博彦曲)・古典として下り葉・勸進帳より・みだれ・寒月・獅子・六段・鹿の遠音・崩れ・敦盛・新八千代獅子・—今回は全て一回ずつ

# 第七次 (一九八〇・一・六—一・二四)

〔特徴・主催地〕

東南アジア再確認。第六次とあわせ、太平洋公演として文化庁助成を受ける。主催は集団若手団員中心で全曲暗譜。

〔演奏日・演奏地〕

一・八 バンコク—タマサート大学公演  
一・九 バンコク—AUAホール公演

一・十一 ジャカルタTIM—ワークショップ

一・十一 ジャカルタ—公演

一・十二 ジャカルタ—公演

一・十四 バンドン—ワークショップ

一・十四 バンドン—公演

一・十七 ジョクジャカルタ—ワークショップ

一・十七 ジョクジャカルタ—公演

一・二十 デンパサル(バリ島)—ワークショップ

一・二十 デンパサル(バリ島)—公演

一・二二 マニラ—CCP大ホール公演

〔参加団員〕西川浩平・三橋貴風・福田輝久・今藤早苗(団外)・田原順子・坂井敏子・吉村

七重・木村玲子・滝田美智子・高橋明邦・黒坂昇・長沢勝俊・三木稔(P)・奈良義寛・デヴィット・ヒューズ(三味線及び通訳として)  
〔演奏曲目〕フアンマゴ・萌春・颯踏・ダンスコンI・ひなぶり、古典として獅子、アジアのメロディーの編曲五曲、他にワークショップ用に小品がいくつか追加された。

# 第八次 (一九八一・十一・八—十二・六)

〔特徴・主催地〕二つの世界のための交響曲Ⅱ(急の曲)ケヴァントハウス命名二百年・新ホール落成記念委嘱新作

世界初演。イタリア縦貫ツアー。集団主催、国際交流基金助成、一部募金、ジャパン・アイツ社マネージメント。

〔演奏日・演奏地〕

十一・十一 ライプツヒ新ゲヴァントハウス  
十一・十二 ス—集団単独  
ライプツヒ新ゲヴァントハウス  
スクルト・マズア指揮でゲヴァントハウス・オーケストラと

十一・十三 三木稔作曲(急の曲)世界初演②  
ライプツヒ新ゲヴァントハウス

ス—同右 ③

十一・十五 ベルリン(東)

十一・十六 シュベット(東独)

十一・十七 ノイブランデンブルグ(東独)

十一・十九 パレルモ(イタリア・シシリー)

十一・二十 トラパニ(〃)

十一・二二 メッシーナ(〃)

十一・二二 カターニャ(〃)

十一・二五 ローマ—オリピック劇場

十一・二九 モデナ(イタリア)

十一・三十 ミラノ

十二・二 ロンドン—セント・ジョン・スミスクスエア

〔参加団員〕藤崎重康・宮田耕八朗・坂田誠山

三橋貴風・福田輝久・加藤洋・坂井敏子・半田淳子・野坂恵子・吉村七重・木村玲子・滝田美智子・尾崎太一(東独のみ)・藤舎成敏

(イタリア・ロンドンのみ)・高橋明邦・黒坂昇・田村拓男・三木稔(P)・植竹茂雄(ジャパン・アーツ社)

〔演奏曲目〕急の曲・凸・ダンスコンI・コンチェルト・レクイエム(三木曲)・華やぎ・秋

の曲(三木曲)・流琵琶、フアンマゴ・二つの舞曲・尺八協奏曲(長沢曲)・ふるさとのうた

(同)・のろま人形・萌春・颯踏、夢十夜(広瀬量平曲)・蝶が死ぬ湖(坂井曲)、古典より新八千代・まつり(藤舎曲)・鶴の巢籠り(宮田曲)

連珠(半田・尾崎編)・鹿の遠音

# 第九次 (一九八二・十・十九—十・二三)

〔特徴・主催地〕

香港アジア・フェスティバル招待で初めて旅費先方持ち。料理とアクシデント。最短の四泊五日。

〔演奏日・演奏地〕

十・二十 香港シテイホール・リサイタル

十・二二 香港シテイホール・シアター②

十・二二 香港シテイホール・シアター③

十・二二 香港シテイホール・シアター④

十・二二 香港シテイホール・シアター⑤

〔参加団員〕藤崎重康・坂田誠山・太田幸子・

田原順子・野坂恵子・内藤洋子・尾崎太一・三木稔(P)

〔演奏曲目〕二二日は、笛・尺八が盗難で使えず、三味線・箏・鼓のための三章(長沢)・わ

・箏譚詩集II(三木曲)、古典として船弁慶・歌舞伎音楽より。二二日は代替の楽器がとど

き、新八千代・行(伴谷晃二曲)・冬の一

日(長沢曲)・鶴の巢籠り、佐保の曲・竜田の曲・

ダンスコンIII(三木曲)

# 第十次 (一九八三・三・四—三・十三)

〔特徴・主催地〕

史上初の三国民間民族楽団協演。日中に懸けられた橋。集団・中国音楽家協会共催。文化庁助成。

〔演奏日・演奏地〕

三・五 北京紅塔礼堂—中国中央民族楽団と三木・彩虹序曲及び長沢・寿歌を世界初演。瑤族舞曲も協演。

他は集団単独 ㊸

北京中央音楽院ホール  
北京対外友好協会ホール—日中交歓演奏会 ㊸

三・十一 上海音楽学院ホール ㊸

三・十二 上海文芸会堂  
〔参加団員〕藤崎重康・竹井誠・坂田誠山・福田輝久・田嶋直士・畦地慶司・加藤洋・坂井

敏子・半田淳子・田原順子・野坂恵子・吉村七重・木村玲子・内藤洋子・滝田美智子・松本和美・堅田啓輝・黒坂昇・田村拓男・長沢勝俊・三木稔(P)・奈良義寛・王燕樵(団友・中国側プロデューサーとして)・松村なほ子(団外・通訳)  
〔演奏曲目〕寿歌・ファンマゴ・颯踏・二つの舞曲・飛驒バラ(以上長沢作品)、彩虹序曲・

巨火・コンチエルト・レクイエム・パラソット・汪燕・秋の曲—オーボエ章とソネット・曲・ひなぶり—フルート李学全・しおさい—チェロ胡国堯(以上三木作品)、古典より獅子・鶴の舞

# 第十一次 (一九八三・七・十七—七・三十)

〔特徴・主催地〕

フィンランド公演。白夜の音楽祭に一週間参加。テーマ作曲家にも。クフモ音楽祭・集団共催。文化庁助成。

〔演奏日・演奏地〕

七・十八 クフモ(フィンランド、以下同)

—クフモ室内音楽祭

七・十九 オウル  
七・二十 クフモ—クフモ音楽祭、三木作品の夕べ  
七・二二 クフモ—クフモ音楽祭  
七・二三 クフモ—クフモ音楽祭(土曜夜、

阿波踊りも演ずる)

七・二五 ヘルシンキ  
七・二七 ハメンリンナ  
〔参加団員〕西川浩平・三橋貴風・蓑田司郎・半田淳子・吉村七重・花房はるえ・尾崎太一・三木稔(P)・横溝亮一(団外・協力プロデュ

—サーとして)  
〔演奏曲目〕わ・ダンスコンIII・秋の曲・流琵琶・孤響・しおさい—セツボ・キマネン及びウラジミール・メンデルスゾーンと協演—竜田の曲(以上三木作品)・冬の日・萌春(以上長沢作品)、古典より獅子・扇の的・鉢返し・鹿の遠音。

# 第十二次 (一九八四・三・十二—三・十七)

〔特徴・主催地〕

もう一つの中国公演実現。練習三昧。交流協会主催。

〔演奏日・演奏地〕

三・十三 台北社教館—前半を台北市立国

楽団

三・十四 台北社教館—同右  
三・十六 高雄市中正文化中心  
〔参加団員〕藤崎重康・坂田誠山・半田淳子・加藤洋・宮越圭子・木村玲子・藤舎成敏・奈

良義寛(P)

〔演奏曲目〕  
冬の日・二つの三味線と小鼓による三章  
(長沢曲)・萌春・ダンスコンIII・わ・秋の曲、(以上三木作品)・行、古典より獅子・扇の的。

五段階

昇・細谷一郎(団外)・目黒一則(団外)・田村拓男・三木稔(P)、(自主参加)島崎春美・山村美子  
〔演奏曲目〕Aプロ—新八千代・扇の的・ファンマゴ・秋の曲・巨火(ヘルリンではパラソットを随所に配し、文様I・鬼の念仏・春鳳・太棹コンポジション・田舞・ニポボ・五段の調・鹿の遠音・散華・踊る春などで構成し、即興的要素を加味した一まとまりのストーリーとし、後半を巨火とする「ニュー」かぐら

# 第十三次 (一九八四・九・二三—十・二十)

〔特徴・主催地〕

オケと協演(急の曲)六回。集団に残された未踏の先進大國フランス・ソ連一挙に登頂。海外で初の冠コンサート。またも新ホール開場盛り立て協力。主催集団、国際交流基金助成、電通YR協力、マネージメント(ソ連・東独)ジャパンアーツ社。

〔演奏日・演奏地〕

九・二五 レニングラード Aプロ  
九・二六 レニングラード Bプロ  
九・二八 モスクワ Bプロ  
九・二九 モスクワ Aプロ  
十・一 フランクフルト・アム・オーダー

(東独) AまたはBプロ

十・三 ライプツヒ  
十・四 ライプツヒ  
十・五 ライプツヒ  
(以上三日間ゲヴァントハウス・オーケストラ定期(急の曲)協演。指揮クルト・マズア) ㊸  
十・八 パリ—サル・ガボウ 日産提供  
十・九 パリ—サル・ガボウ 日産提供  
十・一〇 パリ—サル・ガボウ 日産提供  
十・一一 ベルリン(東)—コミッシユ・オペラ Bプロ

十・十二 ベルリン(東)—同右 Aプロ  
十・十三 ベルリン(東)—新ホール・シヤオシユビールハウス開場記念にゲヴァントハウスと(急の曲)㊸未定  
十・十七 ヘルシンキ—フィンランドイ・アホール(ヘルシンキ・フィル定期で(急の曲)協演。指揮ベルティ・ベツカネン  
十・十八 ヘルシンキ—同右 ㊸未定  
〔参加団員〕西川浩平・竹井誠・坂田誠山(パリのみ)・三橋貴風・福田輝久・米澤浩・畦地慶司・太田幸子・坂井敏子・半田淳子・吉村七重・木村玲子・内藤洋子・滝田美智子・黒坂

(記録 三木稔)

# '84秋のヨーロッパ公演近づく

日本音楽集団の海外公演が始まってから十数年たつが、期間や参加者数、それに企画の自主度合などの点で苦勞・成果共に多く印象に残るのは、第一次・第五次・第八次・第十次であった。第十三次にあたる今回はそれらに勝るとも劣らぬ大事業であらう。

国際的にみて、日本の楽器は孤立しやすい。一民族のものとして特殊な目でみられがちだが、それは困る。他の民族や文化と協調し、互いに高めあい、人類の平和に貢献できる場作りのために、邦楽器といえども、いつも海外に開かれていくべきだ。とはいえ、再び廻ってきた冷戦、そしてヨーロッパ保守傾向の中で、第五回目のヨーロッパ公演はたしかに難事業である。それだけに私たちの海外公演に臨むポリシーと努力は間違っていないことを確める好機でもあるだろう。自ら立候補して参加した演奏者たちの意気込みを期待している。

今回の企画は〈急の曲〉初演三ヶ月後に来日されたクルト・マズア氏の「次はいつ来てくれるか」という要請から始まった。その席上、具体的な年月まで決まり、全ての上演交渉はそこを起点に行われた。ゲヴァントハウスの定期で三回、ベルリンに新築されるコンサート・ホール（由緒ある劇場の建替えて、旧名のままシャウシュピールハウスという）開場祝いで世界各国の代表的演奏団体のラインアップに、日本を代表してゲヴァントハウス・オケと〈急の曲〉を上演する。

〈急の曲〉については、去年のフィンランド公演の企画中に提案したら、今回のトリにあたるヘルシンキ・フィル定期での協演がすんなり決った。この二つの世界のための交響曲は、旅行中都合六回演奏され、各回すでに満員が予想されているので、この曲だけでも両交響楽団や計一万二千人の聴衆と平和の交歓をすることができるといえる。

もう一つ声の大きくなるころがある。過去に集団が公演を行っていない先進大国はソ連とフランスだけであったが、それが今回同時に公演実現となった。

日米とソ連の間は現在極めて冷たい。だがこういつた時にこそ文化は平和への前衛となる。レニングラード・モスクワでの四回の公演は、こちらから真剣に働きかけた採算外の行動だ。必ず心を通わせてくる。

フランスは他国の文化受入れに厳しい民族であり、パリの観客動員はパリ管などでもこのところひどく悪いという。私としては、確信をもてる公演ができるまで着手を延ばしてきたのだが、六年前に集団が音楽之友社賞を受賞した時以来「〈巨火〉をパリで」といってづけていた電通YRの宮崎悦郎氏の努力が遂に実り、日産をスポンサーとして、サル・ガボウという由緒ある都心のホールで二夜、集団のコンサートが開かれることになった。

全十五回の公演の殆んどが、首都クラスの文化大都市であり、同一地で二・三回ずつ上演が行われるという、通常考えられない好条件の旅となる。国内外を覆う暗い文化・経済状況下で、むしろ悲劇的な予算バランスでスタートした今回の企画であったが、現状はプロとして最低限ながら均衡した収支状況にまで到達した。

公演方法も熟慮を重ね、単に曲の羅列にならぬよう、一つの感動が次々の曲に積み重ねられて大きな印象を聴衆に残せるよう、また各奏者の自発性が充分に生かせるようなパフォーマンス・スタイルを考えている。

公演日程・演奏曲目・参加者は海外公演記録抄に加えた。尚、国際交流基金の助成を得、ジャパン・アーツや前記電通YR、それに郵船航空横浜支店他の親身の御協力を頂いてい

ることを付記させて頂く。  
(当公演プロデューサー 三木 稔)

音の世界に飛翔する

## 八尺銘和誠

手頃な普及管から高級管まで

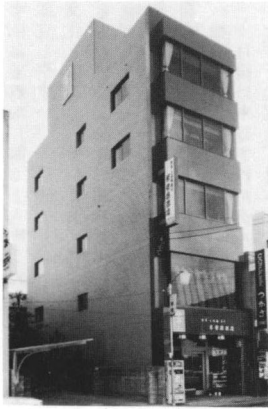
(有) 誠和音芸

代表 坂田誠山

〒156 東京都世田谷区桜3-18-18

TEL (03) 420-0483

# お琴・三味線の琴栄



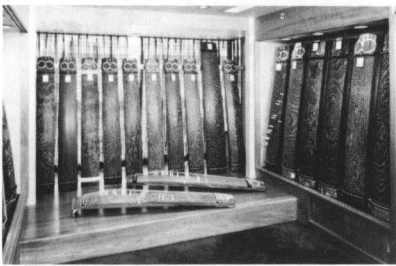
## 創業・昭和8年

・品質の優秀

・価格の値打ち

…定評のある琴栄楽器店

・東海一の実績を誇る店



### ◆1階・店舗

- ◇三味線、尺八、舞扇 多数陳列
- ◇お琴、三味線、尺八の付属品、楽譜 多数取揃えてあります。

### ◆2階・お琴展示場(ミニ舞台付)

- ◇お琴、柎目琴、20絃琴、17絃琴と豊富に取揃えてあります。
- ◇ミニ舞台でお琴を弾いて下さい。

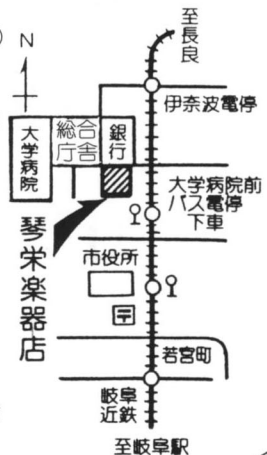
〈お買い求め〉クレジット販売をご利用下さいませ。(最高36回払)  
〈パンフレット〉無料送付致します。



御琴・三味線専門  
**琴栄楽器店**

代表・増田康壽

〒500 岐阜市司町九(大学病院前)  
TEL <0582> 63 1826代



# 日本の音、

都山、琴古型式共

## その磨きぬかれたひびき

☆銘木尺八が生まれかわりました。  
曲りがつき 天然竹 に優る  
音律と耐久性

**新発売!**

歌口黒水牛角入  
一本一本製管調律  
手造の味 (1.3尺~2.3尺まで)



品番  
0152  
楓

標準価格  
1.8尺 ¥22,000円



品番  
0153  
合竹

標準価格  
1.8尺 ¥40,000円



**株ワダ楽器**

富山県砺波郡城端町信末  
TEL (0763) 62-2348

実用新案出願中

ワイドな保障で暮らしにゆとりを



事故のない日はない。こういったも過言でないほどさまざまな危険が私たちをとりまいています。  
車社会の進展や産業技術の高度の発達によって、災害の多様化・大規模化がすすみ、人びとの生活をまもる損害保険の必要性は日々高まっています。安田火災は、皆様のくらしを守ります。

✪ 安田火災海上保険株式会社専属代理店、日本音楽集団・指定代理店  
明和損害保険企画 リスク・マネージャー 小笠原明男

☎板橋支社 (03)962-7311

☎事務所 (03)937-0547

おまかせ下さい。  
リスクチェックを明和損保に



あなたの楽器は

守られていますか？

火災・破損・盗難にそなえ

## 邦楽現代ニュース

## 日本音楽集団一九八四年度前半の主な活動記録

五月十六日(水)

第八十二回春の総合定期演奏会 朝日生命ホール

六月八日(金)

テレビ朝日「題名のない音楽会」録画

六月十一日(月)

(日本音楽集団の二十周年がテーマ) 渋谷公会堂

第八十三回定期演奏会 abc会館ホール

六月十三日(水)

栃木県立喜連川高校鑑賞会

六月十八日(月)～二十七日(水)

文化庁助成北日本地方演奏会

札幌市教育文化会館大ホール(十八日)

旭川市民文化会館(十九日)

下川町公会堂(二十日)

苫小牧市文化会館(二十一日)

長万部町福祉センター(二十二日)

函館市民会館(二十三日)

青森市民文化ホール(二十六日)

岩手県民会館中ホール(二十七日)

六月二十日(水)

北鎌倉女子学園鑑賞会

六月二十三日(土)

長万部高校鑑賞会

六月二十五日(月)

青森テレビ出演

六月二十九日(金)

柏朋会「愛のコンサート」に出演 郵便貯金ホール

六月三十日(土)

「つくばコンサート」で日本音楽集団演奏会

七月六日(金)

筑波研究学園都市 ノバホール

第八十四回定期演奏会 abc会館ホール

七月二十八日(土)

美濃公演 美濃市文化会館

八月二十七日(月)～九月一日(土)

山形市中学校鑑賞会 山形市民会館

九月一日(土)

上山音楽センター設立三十周年記念演奏会 上山市市民会館

九月二日(日)

岡山県芸術祭公演に、半田淳子(琵琶)、内藤洋子(箏)が出演

九月三日(月)

上山市中学校鑑賞会 上山市市民会館

九月五日(水)

第八十五回秋の総合定期演奏会 朝日生命ホール



## 日本音楽集団創立二十周年記念

## 作品公募についての結果報告

創立二十周年を記念して行なわれた作曲公募の審査会が七月七日に行なわれました。

今回、作品は全部で七点の応募があり、今回の審査を担当した伊福部昭、広瀬量平の両氏と日本音楽集団とで慎重に検討した結果、第一位日本音楽集団作曲賞には田中友子氏の「桜川」が選ばれました。なお、二、三位に該当する作品は残念ながらありませんでした。

田中友子氏の作品について「素材も面白く、構成も均衡がとれ、音色の対比にも神経が使われている。さわやかで清潔、新鮮に聞える。」「概念的な効果をねらったのではなく、素直に書けている。」「ト書が付いているところなど女性の作家らしく思われた。こういうスタイルは今までの集団にはなかった新しいものであり、集団の良い財産になるだろう。」(伊福部)「作品には思いがこもっている。それでいてベタベタしていない。スマートであり、まるでさわやかな風が吹いて来たみたい。」「やさしさがあって芯がある。肩ひじはらない作品であり、初々しさがある。」(広瀬)などの評がのべられました。

田中氏の作品は七点の中でも群を抜いており、作風の違う伊福部、広瀬の両氏がござって田中氏の作品を推薦することと一致されたことは興味のあることでした。

他の作品については佐藤隆氏の「隠棲譜」は「実感がこもっている。内に何かもっている人。」「記譜法に問題がある。こういう新しい記譜法で書く時は特に注意してほしい。例えば縦線が不明であったり、奏者にまかせるとしても、これではあまりにあいまい。」(広瀬)「イメージとしてはわかるが作品としての構成が弱い。」(伊福部)

藤井大史氏の「木賊刈の主題によるリフレクションズ」については「各楽器の奏法の研究や経験は豊富なようであるが、音楽自体の次元を高めるよう一段の奮起を望みたい。」(伊福部)

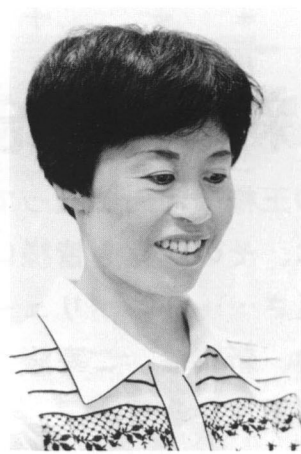
石田秀実氏の「Pebbles 小石」については「点描的な現代音楽を邦楽器に移そうとしたような作品だと思うが、楽器の心を今ひとつ生かし切っていない。」「あまり効果のないハーモニクスなどが指定されている。もっと奏者の弾きがいのあるものにしてほしかった。」(広瀬)「この種の手法はもはや訴えることが少なく、また音楽としての実体が希薄に思われる。」(伊福部)などの評がありました。

■第一位 日本音楽集団作曲賞

田中友子作曲「桜川」

■第二、三位 該当なし

田中友子氏は一九三三年生まれ。東京芸術大学作曲科卒。第二十四回毎日コンクール一位入賞。池内友次郎氏に師事。現代音楽協会会員。  
主要作品「春の楽譜」「ピアノ・トリオ」「ソナチネ」「弦楽四重奏曲」「晶子、みだれ髪」「ピアノ・コンチェルト」他。



田中友子氏

## 第十四回モービル音楽賞(邦楽部門)受賞者決まる

モービル石油株式会社が、日本の音楽文化の発展向上に貢献する目的で昭和四十六年から始めたモービル音楽賞の今年(第十四回)の受賞者(邦楽部門)が常磐津節、三味線方の四世常磐津文字兵衛氏に決まりました。

これは先頃開かれた同賞の選考委員会(選考委員は吉川英史、岸辺成雄、矢野輝雄の三氏)による選考の結果決定したもので、受賞者の常磐津文字兵衛氏(昭和二年東京生れ、五十七才)は常磐津節(江戸中期から歌舞伎とともに発展した三味線音楽のひとつで語り物を主としている。長唄と清元の中間を行く形がとられている)三絃の名手、故三世常磐津文字兵衛氏の次男に生まれ、古典の保存・伝承ならびに創作活動に努力されるかたわら、常磐津協会の常任理事などの要職を勤め、邦楽の発展に大きく貢献されています。

選考委員により発表された、常磐津文字兵衛氏への授賞理由は「常磐津文字兵衛氏は常磐津三味線の優れた奏者であるばかりでなく、古典の保存・伝承にとつて常磐津界の創作にも努力している。その多方面的活動の功績は高く評価される。」というものです。



常磐津文字兵衛氏

昭和五十九年度文化庁芸術祭参加

## 畦地慶司 第四回 胡弓リサイタル

入場料  
二,500円

- 五重奏曲鳳来 ●胡弓と琵琶のための春鳳
- からくせん(初演) 御岳神楽有志との共演
- 胡弓三章 牧野由多可作曲
- ▲賛助出演 福田輝久・西川浩平・坂田進・杜菊表・宮越圭子・木村玲子・滝田美智子・尾崎太一・藤舎成敏・細谷一郎・半田淳子・小山伸彦・田村拓男・御岳神楽有志
- 十一月十四日(水)午後四時五十分開演 朝日生命ホール(新宿西口)
- お問合せ・電話予約 畦地方(03)296-9700(代) 日本音楽サービス(03)378-4741

## 畦地慶司 第三回 胡弓リサイタル

- ゆき ●六段 ●秋風辞 ●睡蓮 ●阿伝
- 十一月一日(木)午後七時開演 大阪朝日生命ホール
- お問い合わせ 田口方(077)51-8133

- 三味線の事は——
- 日本で唯一人の総合——

## 三味線師

## 浜松屋 三味線店へ

- 皮より棹まで手造り自家製造
- 張替は30~50%割引
- 技術最高、値段最低の店

東京都杉並区西荻南3-17-6

☎(03)332-1668/八王子(0426)35-5122

## 新年会・忘年会 ただ今、予約受付中!

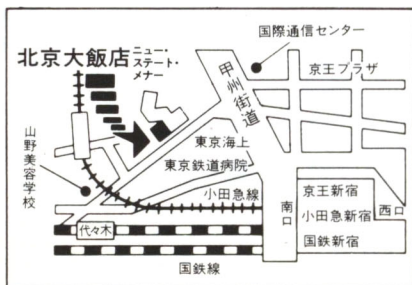
味覚の王様は何んと云っても中国料理です。

当店は、その味覚を皆様にご満足いただける自身をもっております。

味の良さ……。ボリューム……。値段の格安……。

忘年会、新年会、ご家族づれ、ご商談・ご会食等各種パーティーにご利用下さいませ。

- サービスランチ600円より(AM11:30~PM14:00)
- 一品アラカルトコーナー500円より各種ございます。
- 御宴会コース料理 @3,000円より各種承っております。



中国料理



# 北京大飯店

渋谷区代々木2-23-1 ニューステートメナー内IF

TEL.374-9961

## 日本音楽集団及び団員等の今後の予定

九月六日(木)

田原順子第二回筑前琵琶演奏会 名古屋・じゆうぶたい鶴舞座

(この他に九月二十二日東京国立市喫茶店「ジュピター」、十月十三日茅ヶ

崎の農協会館で、同様な古典と現代の弾き歌いのミニ・コンサートを行う)

九月七日(金)～十三日(木)

秋田県巡回学校公演

九月二十三日(日)～十月二十日(土)

第十三次海外演奏会(第四回ヨーロッパ公演)

ソ連(レニングラード・モスクワ)、フランス(パリ)初公演、東ドイツ

(ライプツヒヒ・ベルリン)ではゲヴァントハウス・オーケストラと三

度目の、フィンランド(ヘルシンキ)ではヘルシンキ・フィルハーモニ

ック・オーケストラと初めての「急の曲」(三木稔)共演。

九月二十六日(水)～二十八日(金)

鳥取県巡回学校公演

十月一日(月)

文化庁芸術祭祝典に、東京混声合唱団と共に出演 国立劇場大劇場

十月四日(木)

芸術祭主催公演・邦楽演奏会「音色さまざま」で田原順子が三木稔作曲

《流琵琶》を琵琶独奏

十月十八日(木)

横浜日大中学校鑑賞会 神奈川県立音楽堂

十月二十五日(木)

玉川高島屋コミュニティクラブにて演奏会

十一月一日(木)

畦地慶司第三回胡弓リサイタル 大阪・朝日生命ホール

十一月四日(日)

札幌舞踊会(バレエ) 東京公演「三木稔作品の夕べ」に出演

ゆうぽーと簡易保険ホール

十一月八日(木)

坂田誠山第三回尺八リサイタル 芝abc会館ホール

十一月十日(土)

田嶋直士第四回尺八リサイタル 芝abc会館ホール

十一月十一日(日)

秩父「小さな音楽会」で日本音楽集団演奏会

十一月十四日(水)

畦地慶司第三回胡弓リサイタル 朝日生命ホール

十一月十五日(木)

三橋貴風尺八リサイタル 芝abc会館ホール

十二月五日(水)

第八十六回定期演奏会 俳優座劇場

十二月八日(土)、九日(日)

半田淳子琵琶の世界 上田・中沢コンサートホール

一月二十七日(日)

横浜市にて日本音楽集団演奏会 横浜市緑区公会堂

一月二十八日(月)

第八十七回定期演奏会 abc会館ホール

懐かしの創立メンバー揃う

## 「成功させる会」との交流会報告

日本音楽集団が創立二十周年を迎え、記念コンサートを是非成功させようと積極的に集団を支援する会「創立二十周年記念コンサートを成功させる会」と日本音楽集団との交流会が八月二日に開かれました。

熱心なファンの方々や団員など六十数名が集い暑い夏の一夜をビールとともに音楽談議に花を咲かせました。

会は「成功させる会」世話人の工藤秀也氏の開会のことばに始まり、団員の演奏は藤崎重康の能管と田村拓男の太鼓による「獅子」、半田淳子の薩摩琵琶と田原順子の筑前琵琶の二重奏による「敦盛」の弾き語りがあり、最後は尺八の宮田耕八朗が学校公演などで生徒や先生に大変受けている楽器紹介の実演を漫談家よろしくやり、会場は爆笑となりました。そして尺八の指穴を一個だけ残してあとはセロテープで閉じ、一孔尺八による「星の妹背」(宮田耕八朗曲)を演奏しました。

会には集団からの呼びかけもあり、創立当時の懐かしい顔が並びました。集団の前身である東京尺八三重奏団の村岡実、横山勝也、宮田耕八朗が揃い、箏の山内喜美子、三絃の杉浦弘和、琵琶の山田美喜子、そして長沢勝俊、三木稔、田村拓男の九人の創立メンバー、また第二回定期以降参加の白根きぬ子、坂井敏子と思いがけずたくさんの懐かしい顔が揃い、それぞれが思い出話や現況報告などをしました。

また秋の総合定期演奏会に初演される「秋のコンチェルト」の作曲家中村八大氏、作曲公募で「日本音楽集団作曲賞」を受賞した田中友子氏の紹介と話などがあり、予定の時刻もすぎるほどに盛りあがりました。



# 竜りゅう勝しょう堂どう

手造り

琴・三味線 専門

附属品・琴糸・  
三絃皮張・貸琴

## 倉持楽器店

営業時間 午前9:30～午後6:30  
日曜休日 土曜9:00迄

●先生をご紹介致します。

電話 (店) 0473-45-5807  
0471-63-3864

クリ甲など、ならないお琴もなるように修理出来ます。

## 広告 大募集!!

来年春(1985年5月)の、第88回定期演奏会の本紙  
プログラム上に掲載する広告を広く募集しています。

1 ページ(B 5 版)——60,000円  
1/2 ページ——30,000円  
1/4 ページ——15,000円

募集締切 1985年 3 月 10 日

※表 2、3、4 については特別価格です  
のでご相談下さい。

※お問い合わせは日本音楽集団事務局へ

### 日本音楽集団

〒151 東京都渋谷区笹塚3-17-1滝沢ビル  
電話 03-378-4741(代)

邦楽の流れに御奉仕二百年 ●京のかなぜん  
御来京の節御立ち寄り下さいますことを心より  
御待ち申し上げます。  
店主敬白

和楽器専門店

老舗 KK 金善楽器店

京都市東山区大和大路通り四條下ル二丁目亀山町五七  
TEL 五六一―二九四〇 五四一―一〇九三  
(075) 五二五―一三七五(夜間)

# Murasaki

TOKYO·NEW YORK·PARIS·MILANO

色が香りになった 紫のあでやかさ



世界で匂いたつ 日本の優雅



## 資生堂むらさき

- パルファム……………10,000円
- オードパルファム……………3,000円
- オードパルファム(ビュアマスト)……………3,500円

代表 長沢 勝俊

副代表 坂田 誠山

運営委員長 奈良 義寛 (局長)

事務局 霜島 素子

監事 芹沢 英雄

マネージメント協力

株式会社 ジャパン・アーツ

団員連名

〈正団員〉

望月 太八 (笛)  
西川 浩平 (笛)  
宮田 耕八朗 (尺八・笛)  
坂田 誠山 (尺八)  
三橋 貴風 (尺八)  
福田 輝久 (尺八)

田嶋 直士 (尺八)

藤崎 重康 (尺八・笛)

竹井 誠 (尺八・笛)

米澤 浩 (尺八)

畦地 慶司 (胡弓・作曲)

野口美恵子 (三味線)

太田 幸子 (三味線)

半田 淳子 (琵琶)

田原 順子 (琵琶)

坂井 敏子 (三味線・胡弓)

白根きぬ子 (箏)

宮本 幸子 (箏)

野坂 恵子 (箏) 休団中

吉村 七重 (箏)

花房はるえ (箏・三味線)

宮越 圭子 (箏)

木村 玲子 (箏)

内藤 洋子 (箏)

滝田美智子 (箏)

尾崎 太一 (打楽器)

藤舎 成敏 (打楽器)

堅田 啓輝 (打楽器)

高橋 明邦 (打楽器・指揮)

黒坂 昇 (打楽器)

田村 拓男 (指揮・打楽器)

稲田 康 (指揮)

長沢 勝俊 (作曲)

三木 稔 (作曲)

内田とも子 (作曲)

中島 隆 (楽器係)

〈準団員〉

素川 欣也 (尺八)  
水谷 雅康 (尺八)  
養田 司郎 (三味線)  
加藤 洋 (三味線)

田中悠美子 (三味線)

山本 哲子 (三味線)

山田まゆ美 (琵琶)

熊沢栄利子 (箏)

松本 和美 (箏)

田嶋恵美子 (箏)

佐藤 里美 (箏)

小林恵美子 (箏)

飛山百合子 (箏)

内藤 久子 (箏)

大島菜穂子 (箏)

島崎 春美 (箏)

〈研究団員〉

岡田 寿子 (箏)  
水川 寿也 (尺八)  
佐藤由香里 (箏)  
中野はるな (箏)

山田 明美 (箏)

〈特別留學生〉

社 菊衷 (胡弓)

名誉団員 山田美喜子

協力団員 伊藤 惣一

地方在住団員 塚本 早苗

昭和五十九年九月現在

〈賛助会員〉

(有)琴光堂和楽器店  
(松本・諏訪・東京)

滝沢 修  
野坂 操寿  
鶴田 錦史  
三木 卓雄  
渡辺 精一  
高瀬 卓郎  
霜島 邦子  
半田多真美  
古川羽衣山  
丹野井成寿

〈団友〉

青木 誠 中村 八大 柳家小三治  
秋浜 悟史 野口 鎮 横山 勝也  
荒谷 俊治 佐藤 敏直  
稲垣 隆史 芝 祐靖  
小田切清光 清水 義矩  
川崎 祥悦 芹沢 英雄  
菊地 梯子 高野 文子  
楠 知子 田中 利光  
鞍掛 昭二 鶴野 和子  
鯉沼 広行 広瀬 量平  
杉浦 弘和 鳳声 晴由  
砂崎 知子 星 旭  
戸井 昌造 増田 睦美  
藤舎 呂悦 元橋 康男  
仲俣申喜男 矢崎 明子

〈維持会友〉

AOIミュージック株式会社  
株式会社西友ストア  
株式会社豊島園  
株式会社ノサカ  
書画筆工業  
西武建設株式会社  
西武鉄道株式会社  
西武百貨店  
誠和音楽  
大和精工株式会社  
タマチ工業株式会社  
日本オペラ協会  
菱電商事株式会社  
宮園自動車  
宮園オート

青柳 孝年 武江 利博 星 光和  
赤木 明 田村 鎮男 罇 穂  
朝吹 英一 寺島 孝之 町田 文子  
井阪 絃 内藤 国枝 松井 翠  
稲木 一 永藤 玲子 宮川 剛  
榎本 容三 奈良 英雄 宮川 剛  
遠藤 将一 根志 彰 柳田 正治  
岡 昇三 新倉 鶴子 吉岡 絃子  
金子 博美 野坂 純一 頼本美保子  
家根原光子 旗野 恵美  
亀田 和保 早川 佐和子  
河野 義博 花房 艶子  
近藤 栄一 原 順一郎  
國持 光生 柳川 創造  
高橋 克己 福田 洋一

## 日本音楽協会

## 協会世話人

長沢勝俊(代表)・三木稔・野坂恵子・宮田耕八朗・田村拓男・山田美喜子・坂井敏子・坂田誠山・田嶋直士・奈良義寛・芹沢英雄

## 構成団体

日本音楽集団

野坂恵子二十絃箏エコー  
ぐるーぷ・だだ  
尺八ゾリステン  
関西音楽集団

「星組」合奏団(東京)  
合奏団「たあく」(東京)  
合奏団「鼎」(関西)  
合奏団「遊」(仙台)  
合奏団「グループ・みずほ」(名古屋)  
Nipponia Hawaii Ensemble(ハワイ)

\*以上六団体は日本音楽協会合奏団を構成します。

## 協会支部

東京支部 日本音楽集団事務所扱い

関西支部 田嶋直士

水戸支部 斉藤幸山

長野支部 佐藤幸宇山

山梨支部 郷見

長崎支部 牧山雅楽部

熊本市部 古川羽衣山

秋田支部 野口裕子

邦楽の会つばら事務局

## お知らせ

## ■次回演奏会のご案内

●創立二十周年記念コンサートの第五回目は、第八十六回定期演奏会として会場を俳優座劇場(六本木)に移して行われます。

集団が今秋を含め十三回の海外公演の中で、プログラムの最後のアンコールとして各国の民謡などを編曲し、喝采を浴びた日本の伝統楽器を媒体にした心のふれ合いを体験することができましたが、その他にも中南米のフォルクロレや中国で出会ったすてきな曲などをまとめ、劇場の機構をいかした楽しいコンサート「邦楽器世界を巡る」を考えています。

十二月五日(水) 俳優座劇場(六本木)

●創立二十周年記念コンサートの最後を飾る第八十七回定期演奏会は「室内楽の夕べ」としてさらに意欲的なアンサンブルに取り組みます。

①日本楽器による幻想曲 長沢勝俊作曲

②新曲(初演) 内田とも子作曲

③六連星(むつらばし) 長沢勝俊作曲

④新越後獅子——改訂初演——

一月二十八日(月) 芝 a b c ホール

## ■昭和五十九年度文化庁芸術祭オープニング・コンサート

本年度文化庁芸術祭は、日本音楽集団と東京混声合唱団の共演によるコンサートで幕があきます。

「大津絵幻想」(集団)、「萬歳流し」「追分節考」(東混)などにより、民衆のエネルギーを表現します。

十月一日(月) 国立劇場

編集 日本音楽集団 〒151東京都渋谷区笹塚3-17-1滝沢ビル

電話 〇三—三七八—四七四(代)

印刷 株式会社 光藍社